

豊科町誌 近現代編 目次

口 絵
例 言

第一章 自治制

はしがき……………三

第一節 自治制の成立……………四

一 明治維新から三新法公布前まで……………五

1 神葬祭と魔寺 2 学校の設立 3 成新学校・鳥羽

学校 4 大区小区制 5 合併豊科村・南穂高村・高

家村・上川手村の成立 6 明治初年の学校―吉野学校

― 7 郷村社・神風講社

二 三新法公布から町村制施行まで……………三五

1 郡村制 2 村会の開設 3 学校・教育費 4

村会と学区会 5 連合村会 6 連合戸長役場 7

学区の統合 8 分村運動

第二節 自治制の変遷……………七〇

一 町村制施行後の豊科村財政……………七〇

二 日清戦争以後の村財政……………九〇

三 日露戦争以後の豊科村財政……………九六

四 明治中期および後期の学校事情……………一〇四

1 南安曇高等小学校の位置問題 2 豊科尋常小学校の

位置問題 3 不就学・学校経費の問題 4 高等小学

校組合 5 豊科尋常高等小学校

五 大正期……………一一二

1 豊科村の町村制施行 2 第一次世界大戦以後の町財政

3 郡制廃止に至るまで

六 昭和期……………一四一

1 昭和初期の農村不況と町村財政 2 戦争への道

3 戦後の豊科町

第三節 旧南穂高村の財政……………一六二

一 明治二〇年代の財政……………一六二

1 歳入 2 歳出

二 明治三〇年代の財政……………一六七

1 歳入 2 歳出

三 明治末年・大正初期の財政……………一七四

1 歳入 2 歳出

四 大正期の財政……………一七八

1 歳入 2 歳出

五 昭和初年代の財政……………一八五

1 歳入 2 歳出

第四節 旧上川手村の財政……………一八九

一 大正期の財政……………一八九

1 歳入 2 歳出

二 昭和初期の財政……………一九五

1 歳入 2 歳出

三 太平洋戦争中の財政……………二〇一

1 歳入 2 歳出

四 戦後の財政……………二〇四

1 歳入 2 歳出 3 昭和二五・二六年度の歳入・

歳出

第五節 旧高家村等の治水・治山・消防……………二一三

一 梓川（犀川）の堤防と水害……………二一三

二 万水川、中曽根川の堤防……………二一九

三 治 山……………二二〇

四 上川手村の消防……………二二七

五 南穂高村の消防……………二二九

1 踏入・重柳両区の消防組

第六節 新豊科町の自治制……………二三一

一 新町発足後の諸事業……………二三一

1 合併直後の状況 2 初期の都市計画 3 役場序

舎新築と有線放送の開始

二 住宅施策の進展と生活環境等の整備（付消防）……………二三五

1 住宅施策進展の状況 2 昭和四〇年代における生活

環境等の整備（付消防）

三 都市計画法による線引と施策……………二四一

1 D・I・D形成と都市計画 2 市街化調整区域への

対応 3 都市施設と市街地開発 4 線引見直しとそ

の後の状況

四 高速道時代の町づくり……………二四八

1 インター供用開始前後の大型事業と（観光立町）化

2 友好交流 3 観光立町の進展 4 広域的事業の

始動 5 役場の機構改革と区

五 町財政の推移（一般会計を中心に）……………二五六

1 昭和三〇年代の一般会計歳入の状況 2 昭和三〇年

代の歳出等 3 昭和四〇年代の一般会計歳入の状況

4 昭和四〇年代の歳出等 5 昭和五〇年代の一般会計

歳入の状況 6 昭和五〇年代の歳出等 7 昭和六〇

年代以降の一般会計歳入の状況 8 昭和六〇年代以降

の歳出等と課題

付 歴代首長・議会議長……………二七八

一 歴代首長……………二七八

二 歴代議会議長……………二八〇

第二章 町部の発展

第一節 世帯・人口の増加における町部の地位……………二八一

第二節 明治初期における町部……………二九〇

一 町部の概況……………二九〇

二 初期の成相	二九三	第六節 郡役所廃止以後の町部	三四三
三 明治二年戸籍にみえる成相	二九五	一 新たな発展への努力	三四三
四 明治初期の養蚕業	二九六	二 中小工場の設置	三四四
第三節 郡役所開設以後の町部	二九九	三 町部上水道の成立	三四七
一 郡役所はじめ各種公共機関の設置	二九九	四 未解決の復興方途	三四九
二 新糸魚川街道と当時の交通手段	三〇三	第七節 呉羽紡績招致と町部	三五一
三 初市縁起	三〇五	一 呉羽紡績との契約締結まで	三五一
四 町部ことに成相の商業的發展	三〇九	二 呉羽紡績工場の発足	三五八
第四節 大火以後の町部	三一八	豊科紡績株式会社の開場	会社側の設置理由
一 復興と急速な發展	三一八	致の影響とその後の動き	町の上層階級の変化
二 諸機関の整備	三一九	三 第二次大戦中の町部	三六一
銀行の設立	電灯	第八節 平和体制への復帰	三六三
篠ノ井線と田沢街道	地元ジャ	一 諸工場の転換	三六三
一ナリズムの成立		二 商業の推移	三六八
三 諸営業とりわけ繭・蚕種取引の發展	三二二	商業の立ち直り	豊科商工会の再建
第五節 大正期の町部	三三〇	三 各種事業体の概況	三七一
一 大正初期の町部の情景	三三〇	四 諸官衙	三七三
二 繭・蚕種取引の中心としての繁栄	三三一	豊科警察署	法務局
三 諸施設・機関の充実	三三三	地方事務所	豊科建設事務所
市内電話	電灯の普及	第九節 戦後における人口・世帯の職業的構成	三七四
信濃鉄道の開通	バスの開	一 戦後人口の変遷	三七四
通	地元誌の競刊	二 世帯単位の職業構成	三八〇
花柳界の繁栄	郡役所の新築と	第一〇節 旧豊科町と呉羽豊科工場との関係	三八七
当時の町勢		第一一節 町部世帯の来歴	三九一
四 大正後期の諸営業	三三八		
豊科商業会の発足	会社調べ		
大正一二年各部落の営	業者		
豊科冷蔵庫の創立と蚕種業の盛衰	郡役所の廃		
止	大正末期の諸営業者		

第三章 経済（その一）

第一節 明治初年の農業―地租改正―

一 幕末・明治初年の村の状態……………三九三

二 地租改正……………三九九

三 地租改正の影響……………四一二

第二節 農業の変遷

一 土地所有……………四一七

二 米麦作その他……………四二二

三 養 蚕……………四二七

四 産業組合……………四三一

五 農 業 会……………四三八

第三節 戦後の農業

一 農地改革……………四四一

二 農業協同組合……………四四四

三 農業経営……………四四九

第四節 現代の農業

一 圃場整備……………四五六

二 あづみ農協……………四五九

三 農業経営……………四六四

1 機械化 2 経営耕地 3 農産物

第四章 経済（その二）

第一節 近代の交通・通信

一 道 路……………四七七

1 明治初年の道 2 明治初年の豊科村内の道路 3
大正年代の県郡道

二 諸 車……………四八一

三 鉄 道……………四八二

1 篠ノ井線の開通と田沢駅 2 信濃鉄道株式会社の創

立

四 自 動 車……………四九〇

五 通 信……………四九二

第二節 現代の交通・通信

一 道 路……………四九六

1 国道 2 主要地方道・一般県道 3 長野自動車道

4 橋梁 5 町道 6 豊科町の道路現況

二 自 動 車……………五〇七

三 国鉄（JR）の利用状況……………五〇八

四 通 信……………五〇九

1 郵便 2 電話 3 有線放送電話

第三節 近代の商工業・金融

一 商 業……………五一二

1 商品経済の発達 2 商業の発展 3 商業の形態

二 工 業……………五一七

1 明治前期 2 明治後期 3 大正・昭和期

三 金 融……………五二四

1 開産社 2 銀行その他

第四節 現代の商工業・金融

一 商 業……………五三三

1 「豊科銀座」の繁栄（昭和三〇年代） 2 豊科二業地の消長（昭和三〇年代） 3 昭和四〇年代の商業 4 昭和五〇年代以降の商業の変貌

二 工 業 …………… 五五〇

1 工場誘致の進展と工業都市化 2 近年の状況（昭和六〇年以降）

三 金 融 …………… 五六一

1 公益質屋 2 現在の金融機関

第五章 教育・文化

第一節 学校教育 …………… 五六五

一 豊科町の小学校 …………… 五六五

1 各学校の沿革 2 小学校統合の経緯 3 豊科町の現在の小学校

二 豊科町の中学校 …………… 五七八

1 豊科中学校 2 二校分離の経緯と建設概要 3 豊科北中学校 4 豊科南中学校

三 県立高等学校 …………… 五八一

1 南安曇農業高等学校 2 豊科高等学校

第二節 社会教育 …………… 五八六

一 明治・大正期の社会教育 …………… 五八六

1 明治・大正・昭和初年の青年団活動 2 戦後の青年

二 戦後の社会教育—公民館の歩み— …………… 五九〇

1 公民館の組織・施設 2 初期の公民館活動 3 視聴覚教育 4 昭和五〇年代の公民館活動

三 生涯学習 …………… 五九七
四 同和教育 …………… 五九九
五 平成年代の社会教育 …………… 六〇一
六 社会教育施設 …………… 六〇三

1 豊科町立図書館 2 豊科町郷土博物館 3 豊科近代美術館 4 田淵行男記念館 5 飯沼飛行士記念館

第三節 文 化 …………… 六〇九

一 文 学 …………… 六〇九

1 短歌 2 俳句 3 漢詩 4 現代詩ほか

二 美 術 …………… 六一三

1 絵画 2 彫刻

三 その他 …………… 六一四

1 音楽 2 芸能 3 大衆文芸 4 豊科町芸術文化協会

第四節 宗 教 …………… 六一七

一 仏 教 …………… 六一七

二 キリスト教 …………… 六一一

三 天 理 教 …………… 六二二

四 創価学会 …………… 六二二

五 立正佼成会 …………… 六三三

第六章 福祉・厚生

第一節 豊科町予算書から見た福祉・厚生 …………… 六二五

一 昭和三〇年代の福祉・保健衛生 …………… 六二五

1 福祉 2 保健衛生
 二 昭和四〇年代の福祉・保健衛生……………六三〇

1 福祉 2 保健衛生

三 昭和五〇年代の福祉・保健衛生……………六三六

1 福祉 2 保健衛生

四 昭和六〇年代から平成年代の福祉・保健衛生……………六四〇

1 福祉 2 保健衛生

第二節 町内の主な医療機関……………六四八

第三節 豊科町上水道の現在……………六四九

第七章 人 物……………六五一

丸山久左衛門 岡村勘兵衛 狩野梅玄 丸山保秀 横

山義彦 安江寮藏 轟伝 細萱伝平 岡村阜一 藤森

桂谷 竹内泰信 丸山貫長 横川たき 丸山英一郎

笠原宗司 小穴五郎 細川喜之也 丸山光司 高木保

吉 水谷甚二 篠崎四郎 小穴憲吾 望月伝市 古川

栄一郎 三原儀十郎 岡村末作 飯田慶司 会田貢

井口香山 高橋保 高木義人 藤森馨 平林広人 細

川甚十 藤森秀夫 花村四郎 長谷川清登 田中耕

小林章 田淵行男 飯沼正明 大谷茂盛 藤原保信

執筆分担

あとがき

協力者名簿

豊科町誌編集委員会名簿

題字 豊科町長 水谷太一